

酪農試験場だより

No. 62



南那須育成牧場の放牧風景

今月の内容

- 1 外来雑草にご注意
- 2 被覆肥料を使った新しい施肥技術
- 3 酪農試験場の新体制

外 来 雑 草 に ご 注 意



最近、街角でもずいぶん外国の方を見かけるようになり、国際化の波を実感する今日この頃ですが、これを受けてか飼料畑も国際化時代を迎えています。というのは、ここ数年県内の飼料畑に今までには見たこともない強力な外来雑草がはびこり出しているのです。

○県内の発生概況

昨年の春から秋にかけて、県内の全普及所（14）を通し、外来雑草の発生概況を調査した結果、調査対象雑草46種中、31種の発生が確認されました。確認件数の多かったものは表1のとおりです。

この中でもイチビ、ハリビユ、ワルナスピ、アレチウリ、キハマスケは厄介者で、今後の広がりぐあいによっては、大きな問題になることが予想されます。特に、イチビについては昨年の酪試だよりNo.56でも取り上げていますが、ほぼ県内全域で発生が確認されており早急な対応が望まれます。

○拡散防止対策

一般的な対策としては、次のようなことが考えられます。

①強害外来雑草の多くは購入飼料に混入して侵入してくるので、堆肥の切返しを十分に行い、発酵熱で種子の発芽を抑制させる。

②雑草の発生した圃場から未発生圃場への拡散を防ぐ意味で、作業機械などの移動の際にはよく土を落とす。

③除草剤や作付体系を変えるなどの積極的排除策を行う。

しかし、これらの雑草は発生が確認されてから日も浅く、決定的な防除策は各研究機関で検討中ですので、普段から注意し、被害を最小限に食い止めるよう、早めの対応を心掛けてください。

表1 外来雑草確認件数(7-スト10)

順位	草 種	確認件数
1	イチビ	11
2	ヒメジヤク	8
2	ハルジヤク	8
4	ハリビユ	7
4	ハキタメギク	7
4	セイヨウタンポポ	7
7	アメリカマゴボウ	6
8	ワルナスピ	5
8	アレチウリ	5
8	キハマスケ	5

被覆肥料を使った新しい施肥技術



被覆肥料（コーティング肥料、緩効性肥料）は、化成肥料の表面を樹脂、ようりん、イオウなどの被覆材でコーティングされ、成分の溶出速度が緩やかな肥料のことです。すでに飼料作物以外の分野では実用化され、特に栽培期間の長い果菜、花卉等で一部利用されています。

この被覆肥料には、次のような特徴があります。

①施肥の省力化

肥料の表面は被覆材で覆われているため、通常の速効性の化成肥料に比べ緩やかな効果を示します。そのため、作物に適した被覆肥料（溶出速度には色々なタイプがある）を選べば、生育期間をとおして肥料成分の溶出が長期に持続されるため、途中で追肥をする必要がなくなります。

②肥料成分の利用率の向上

今までの肥料に比べ、作物に過不足なく必要な量だけが供給されるため、肥料の無駄が少なくなり、10～30%施肥量を減らすことが可能とされています。

③肥料成分の環境への放出抑制効果

水に溶けやすい化成肥料に比べて、雨による溶脱は少ないようです。また、作物の吸収に見合った量だけ溶出するように調節すればさらに損失は少なくなります。このような特徴を効果的に使えば作物に無駄なく利用され、環境に与える影響が少ないです。

④扱いやすい

不透水性の膜で覆われているため、吸湿せずべたつきません。そのため、肥料が固まることも粉になることもなく、取り扱いやすい肥料といえます。

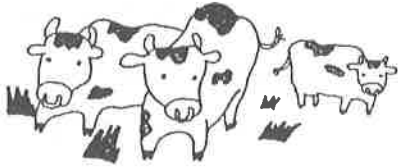
⑤化成肥料に比べ値段が高い

化成肥料に比べ約1.5～2.5倍と高いのもこの肥料の特徴です。

現在、被覆肥料の飼料作物への利用例は、まだほとんどありませんが、南那須育成牧場では、年3～4回施肥を必要とする放牧草地での施肥作業の省力化（年1回のみの施肥）と肥料の有効利用の実用化に向け、現在試験を実施しております。

酪農試験場の新体制

平成6年4月1日付けの定期異動により場内体制が下記のとおり変わりました。各部の業務内容については従来どおりです。



場長-----藤田 繁
 技 幹-----郷間 和夫
 場長補佐兼庶務課長-----鈴木 昭夫
 場長補佐-----加藤 智久

経営調査部 Tel 0287-36-0280

部長-----菅間 道博
 研究員-----齋藤 実

飼養技術部 Tel 0287-36-0768

部長-----国米 茂
 研究員-----室井 章一
 研究員-----岡崎 克美

改良繁殖部 Tel 0287-36-0428

部長-----荒井 徹
 主任研究員-----関沢 文夫
 研究員-----飛田 府宣
 研究員-----濱田 勉

草地飼料部 Tel 0287-36-0516

部長-----千枝 健一
 研究員-----木下 強
 研究員-----齋藤 憲夫

南那須育成牧場 Tel 0287-88-7878

牧場長(兼)-----郷間 和夫
 特別研究員-----石松 茂英
 主任研究員-----齋藤 光男
 研究員-----小野崎敦夫

業務内容

- ①場内の試験研究等の連絡調整
- ②酪農経営に関すること
- ③自給飼料分析指導事業

- ①乳牛の飼養管理技術試験
- ②飼料の給与試験
- ③飼料の設計に関すること

- ①牛受精卵移植試験
- ②乳牛及び肉牛改良効率化事業
- ③スーパーカウ整備事業

- ①ロールベール体系による粗飼料生産試験
- ②家畜糞尿処理に関する試験
- ③飼料作物の品種選定試験

- ①育成牛の哺育育成に関すること
- ②草地造成管理技術試験
- ③哺育育成新技術の開発

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No62

〒329-27西那須野町千本松298

平成6年5月2日

電話0287-36-0280